

令和8年度 計画変更

土 地 改 良 事 業 計 画 書

農 業 競 争 力 強 化 基 盤 整 備 事 業 (農 地 整 備 事 業)

地 区 名：豊富南部地区

所 在 地：山梨県中央市

事業主体：山 梨 県

目 次

第1章 目 的	1
第2章 地域及び地積	2
第1節 地 域	2
第2節 地 積	2
第3章 現 況	3
第1節 気象及び海象	3
1. 一般気象	3
2. 特殊気象	3
3. 海 象	4
第2節 土 地 状 況	4
1. 地形、土壤及び侵食の程度	4
2. 土地分類	5
3. 土地利用の状況	5
4. 土地所有の状況	5
第3節 水 利 状 況	6
1. 用水状況	6
2. 排水状況	8
3. 河川状況	9
第4節 道路現況	9
1. 道路概況	9
第5節 地域農業の概況	10
1. 産業別就業人口	10
2. 経営耕地広狭別農家数及び耕地の分散状況 並びに専兼業別農家数	11

3. 動力農機具及び主要家畜頭数	11
4. 主要作物作付状況	12
5. 農業の動向	13
第6節 地域環境の概況	14
第4章 一 般 計 画	15
第1節 事業計画の要旨	15
1. 要 旨	15
2. 事業別面積	15
第2節 営農計画及び土地利用計画	16
1. 営農計画の概要	16
2. 土地利用区分	16
3. 作付方式	17
4. 生産計画	18
5. 労働改善計画	19
6. 級地別土地利用区分	19
7. 土地配分計画	19
第3節 用 水 計 画	20
1. 計画基準年	20
2. 計画かんがい方式	20
3. 計画用水系統	20
4. 計画用水量	21
5. 水源計画	21
第4節 排 水 計 画	22
1. 計画基準雨量	22

2. 計画排水方式	22
3. 計画排水系統	22
4. 計画排水量	23
5. 排水対策	24
6. 湛水検討	24
第5節 道 路 計 画	25
1. 道路および索道	25
2. 路線配置図	26
第6節 農用地造成計画	27
第7節 洪水調整計画	27
第8節 干 拓 計 画	27
第9節 農用地整備計画	27
1. 区画整理	27
2. 暗渠排水	28
3. 客 土	28
4. 農地保全	28
第10節 老朽ため池改修計画	28
第5章 主要工事計画	29
第1節 用 水 施 設	29
1. 貯 水 池	29
2. 頭 首 工	29
3. 揚 水 機	29
4. 用 水 路	29
第2節 排 水 施 設	30
1. 排水水門	30
2. 排 水 機	30
3. 排 水 路	30

4. その他排水施設	30
第3節 道路及び索道	31
1. 道路	31
2. 索道	31
第4節 農用地造成	31
第5節 洪水調整施設	31
第6節 干 拓 施 設	31
第7節 農用地整備施設	32
1. 区画整理	32
2. 暗渠排水	32
3. 客 土	32
4. 除 礫	32
5. 農地保全	32
第8節 老朽ため池改修施設	33
第6章 付帯工事計画	33
第7章 工事の着手及び完了の予定時期	33
第8章 環境との調和への配慮	34
第9章 換地計画の概要	35
第1節 換地計画を作成する上での基本的な考え方	35
第2節 換地区の設定	35
1. 換地区の名称、所在、面積	35
2. 換地区を設定する理由	35
第3節 換地計画樹立の基本方針	35
1. 従前の土地の地積の基準	35
2. 用途別予定地積	36
3. 農用地集団化の方針	37
4. 非農用地の換地の方法	37

第4節 土地評価及び精算の方法 -----	38
1. 評価の方法 -----	38
2. 精算の方法 -----	38
第5節 換地計画樹立の年度計画 -----	38
第6節 換地処分の特則 -----	38
第10章 事業費の総額及び内訳 -----	39
第11章 効 用 -----	39
第12章 関連する事業 -----	40
第13章 現況・計画図面（別添） -----	40

第1章 目 的

本地区は、山梨県中央市旧豊富村に位置し、営農形態は笛吹川流域の低平地の水田地帯と丘陵地帯の畑地帯に分けられ、水田地帯では水稻のみならず裏作にスイートコーン等の野菜類が栽培され、丘陵地帯ではもも等の果樹やスイートコーン等の野菜が栽培されている。本地区は全域が国営かんがい排水事業笛吹川沿岸地区の受益となっており、笛吹川沿岸地区の用水を活用した高収益・高生産の複合経営が展開されている。

本地区周辺は、平成14年から実施された中山間地域総合整備事業等により整備されているが、谷内田や急勾配の丘陵地など条件不利地は整備が遅れ、小区画・不整形など営農環境の悪い農地が点在している。また、農地の背後に山林があることから獣害被害も深刻化し、営農意欲を失いつつある。これらの理由や後継者不足も影響して耕作放棄地が増加している。

今後さらに高収益作物の生産を推進していくため、営農形態が同じであり、主要地方道甲府中央右左口線^{うばくち}やシルクラインを利用しJAふえふきに出荷する範囲である旧豊富村南東部エリアを対象に、排水路整備や区画整理等の生産基盤整備を行う。区画整理により集積・集約化を図り、笛吹川沿岸地区の用水を活用したもも等の果樹や野菜の複合経営を拡大して、JAふえふきへの系統出荷や年間を通した「道の駅とよとみ」への直売品の出荷を促進する。さらには、休耕地となっている水田の畑利用等により有機野菜の地域ブランド化を目指し、中間管理機構を利用した新規就農者や農業生産法人等新たな担い手への農地集積も併せて進めていく。

第2章 地域及び地積

第1節 地 域

(第1表)

事 業 名	地 域
農業競争力強化基盤整備事業	山梨県中央市内

第2節 地 積

(第2表)

地 域	面 積 (ha)							備 考
	水 田	普 通 畑	樹 園 地	牧 草 地	農 用 地 計	山 林 原 野	そ の 他	
中央市	430	349			779	552	1,838	3,169

資料：田、畑「令和6年作物統計調査耕地面積」、山林、総面積「2020年農林業センサス」

第3章 現 況

第1節 気象及び海象

1. 一般気象

(第3表－1)

観測所名	甲府地方気象台		かんがい期	非かんがい期	計 又は平均	備 考
観測期間	S56年～R7年		5月～9月	10月～4月		
平均気温		(℃)	23.7℃	8.6℃	15.3℃	平年時平均気温
降水量	平均	(mm)	134.0mm	68.8mm	96.2mm	
	基準年	(mm)	--mm	--mm	--mm	
降水日数	平均	(日)	11.0日	6.7日	8.5日	
	基準年	(日)	--日	--日	--日	
根雪期間			根雪初 月 日	融雪 月 日	日	
無霜期間			4月15日～11月7日			H3～R2
最多風向			南西	最大風速(風向) ※甲府気象台	33.9m/s (東南東)	最多風向発生時期 4月～9月
						最大風速発生年月日 S34年8月14日

2. 特殊気象

(第3表－2)

観測所名 甲府地方気象台		第1位			第2位			第3位			第4位			第5位		備考
観測期間 M27年～R7年	数量	年月日	発生確率	数量	年月日	発生確率	数量	年月日	発生確率	数量	年月日	発生確率	数量	年月日	発生確率	
最大日雨量 (mm)	244.5	1945.10.5	1/100	230.5	2002.7.10	1/60	223.3	1948.9.16	1/40	222.5	1910.8.10	1/40	213.8	1947.9.15	1/33	
最大時間雨量 (mm)	78.0	2004.8.7	1/60	73.0	1978.7.8	1/52	62.0	2011.7.30	1/23	61.0	1990.9.20	1/21	59.5	2003.8.5	1/17	
最大連続雨量 (mm)	498.0	1948.10.2 ～10.11	1/82	451.5	1910.8.2～ 8.10	1/49	419.5	1935.9.20 ～9.26	1/26	394.2	1896.9.6～ 9.11	1/26	390.5	1938.6.27 ～7.8	1/25	
最大連続干天日数 (日)	91.0	2020.10.24 ～1.22	1/122	71.0	1973.11.1 ～1.20	1/21	68.0	2005.11.7 ～1.13	1/16	57.0	1975.12.10 ～2.4	1/7	56.0	1995.11.21 ～1.15	1/6	

3. 海 象

該当なしにつき記載を省略

第2節 土地状況

1. 地形、土壌及び浸食の程度

(1) 地 形

(第4表－1－1)

事業名	地目	田					畑・その他				受益地標高 (m)		備考
	傾斜区分	1/300 未満	1/300 ～ 1/100	1/100 ～ 1/20	1/20 以上	計	8° 未満	8 ～ 15°	15° 以上	計	最高	最低	
農業競争 力強化基 盤整備事 業	面積 (ha)	5	8	2	5	20	59	20	1	80	320	240	旧豊富村
	比率 (%)	23%	41%	10%	26%	100%	75%	25%	1%	100%			

資料：傾斜区分別比率「第4次土地利用基盤整備基本調査」、農地面積「2020年農林業センサス」

(2) 土 壌

(第4表－1－2)

項 目 土壌統(区)名	土 壌 統 (区) 区 分 一 覧 表							面積 (ha)	備 考
	土 壌 断 面								
	色	腐植	れき層	土性			泥炭層 黒泥層及び グライ層		
				表土	下層土				
一層				二層	三層				
大川口統	黄褐色	富む	-	CL	CL	CL	-	32.0	事業区域
計								32.0	

(3) 侵食の程度

該当なしにつき記載を省略

2. 土地分類

該当なしにつき記載を省略

3. 土地利用の状況

(第4表-3)

事業名	土地利用 市町村名	耕 地						採草 放牧地 (ha)	原野 (ha)	その他 (ha)	計 (ha)	備 考
		水田 (ha)	普通畑 (ha)	牧草畑 (ha)	果樹園 (ha)	茶園 (ha)	その他の 樹園地 (ha)					
農業用排水施設	中央市	—	14.9	—	4.0	—	—	—	—	—	18.9	
農道	中央市	1.6	2.6	—	0.4	—	—	—	—	—	4.6	
ほ場整備	中央市	2.1	1.0	—	4.1	—	—	—	—	1.3	8.5	
計		3.7	18.5	—	8.5	—	—	—	—	1.3	32.0	

4. 土地所有の状況

(第4表-4)

事業名	所有別		個 人 有			土地改良区有	市町村有	県 有	国 有	計	備 考
	区分										
農業競争力強化基 盤整備事業	面 積 (ha)	32.0								32.0	
	受益者数 (人)										
	筆 数 (筆)										
	権 利 関 係										
	備考 (関係戸数)										

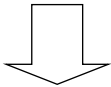
第 3 節 水利状況

1. 用水状況

(1) 用水系統

本地区の用水は、七覚川から取水し地区内に配水される。

七覚川より取水



支線用排水路 1	
A	6.3 ha
Q1	0.02 m³/s
Q2	

(2) 用水施設

(ア) 取水方法一覧表

(第 5 表－ 1)

施設名 項 目	か ん が い 面 積						計		水 利 権		慣行水利権		延べ取水量	備 考
	500 ha 以上		500～100 ha		100 ha 未満									
	箇所	ha	箇所	ha	箇所	ha	箇所	ha	箇所	m³/s	箇所	m³/s	m³/s	
貯 水 池														
井 堰														
自然取入口					1	6.3	1	6.3	—	—	—	—	—	
揚 水 機														
そ の 他														
計					1	6.3	1	6.3	—	—	—	—	—	

(イ) 改修を要する施設一覧表

(第5表-2)

事業名	項 目 施設名	施設名 又は 箇所数	受益面積 (ha)	構 造	規 模	新設年 又は 更新年	改修を必要とする理由	備 考
	貯 水 池							
農業競争力強化基盤整備事業	井 堰							
	自然取入口							
	揚 水 機							
	用 水 路							
	そ の 他							
	計							
	合 計							

(3) 用水に関する被害状況

(ア) 用水不足による被害状況

特になし

(イ) その他の被害状況

特になし

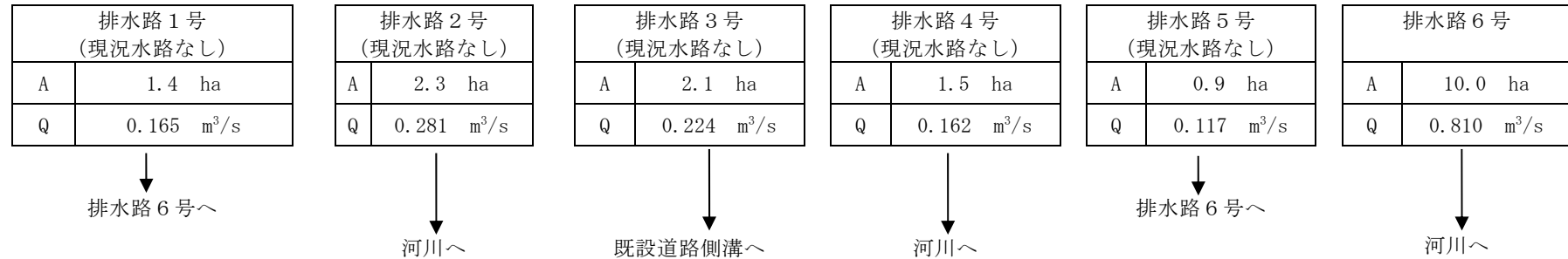
(4) ため池決壊の場合の想定被害状況

該当なしにつき記載を省略

2. 排水状況

(1) 排水系統

本地域の排水は、河川または既設道路側溝に自然排水される。



(2) 排水施設

(ア) 排水方法一覧表

(第5表－4)

事業名	施設名 項目		排水面積						計		排水慣行 (m³/s)	現況排水能力 (m³/s)	備考
			100ha 以上		100ha～20ha		20ha 未満						
			箇所	ha	箇所	ha	箇所	ha	箇所	ha			
農業競争力 強化基盤整 備事業	自然	排水路	--	--	--	--	6	18.9	6	18.9	--	--	
		水門	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	
	機械	排水機	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	
		水門及び排水機	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	
		排水路及び排水機	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	
	計						6	18.9	6	18.9			
合計		--	--	--	--	6	18.9	6	18.9	--	--		

(イ) 改修を要する施設の一覧表 : 該当なし

(第5表-5)

事業名	項目		施設名又は 箇所数	受益面積 (ha)	構 造	規 模	新設年又は 更新年	改修を必要とする理由	備 考
	施設名								
農業競争力 強化基盤整 備事業	自然	排 水 路	6	18.9	コンクリート	300×300 等	H30-R9	排水不良の解消	
		水 門							
	機械	排 水 機							
		水 門 及 び 排 水 機							
計									

(3) 排水に関する被害状況

断面不足や排水路未整備により周辺農地への溢水被害が生じ、営農に苦慮している。

3. 河川状況

該当なしにつき記載を省略

第4節 道路現況

1. 道路概況

(第6表)

路線名	管理区分別	延長(m)	幅員		構造	改修の要否	備考
			全幅	有効			
農道2号	中央市	540	4.0	(3.5)	As	要	

第 5 節 地域農業の概況

1. 産業別就業人口

(令和 2 年 10 月 国勢調査) (第 7 表-1)

項目 市町村名	総 数	農 業	林 業	漁 業	鉱 業	建設業	製造業	電 気 ガ ス 熱 供 給 水 道 業	運 輸 通信業	卸 売 小 売 業	金 融 保 険 業	不 動 産 業	サービ ス 業	公 務	その他	備 考
	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	
旧豊富村	1,635	249	2	-	-	148	330	8	71	220	13	7	98	67	422	旧豊富村
計	1,635	249	2	-	-	148	330	8	71	220	13	7	98	67	422	
比 率 (%)	100	15	0	-	-	9	20	0	4	13	1	0	6	4	28	

2. 経営耕地広狭別農家数及び耕地の分散状況並びに専業別農家数

(令和2年 2020 農林業センサス) (第7表-2)

区分 市町村名	総農家数 (戸)	経営耕地広狭別農家数 (戸)						1戸当たり平均農用地面積 (ha)						専業別農家数 (戸)			備 考
		0.3 未満	0.3 ～ 0.5	0.5 ～ 1.0	1.0 ～ 2.0	2.0 ～ 3.0	3.0 ha 以上	田	畑	樹 園 地	小 計	草 地	計	主 業	準 主 業	副 業 的	
旧豊富村	140	8	34	69	28	1	0	0.2	0.4	0.4	0.9	0.0	0.9	27	17	95	旧豊富村
比率 (%)	100	6	24	49	20	1	0	20	52	28	100	0	100	19	12	68	

注) 「1戸当たり平均農用地面積」は「経営耕地面積÷販売農家数」により算出。

3. 動力農機具及び主要家畜頭数

(動力農機具：2015 農林業センサス、主要家畜：2020 農林業センサス) (第7表-3)

項目 市町村名	動 力 農 機 具						主 要 家 畜								備 考
	動力田植機		トラクター		コンバイン		乳用牛		肉用牛		豚		鶏		
	数量 (台)	戸数 (戸)	数量 (台)	戸数 (戸)	数量 (台)	戸数 (戸)	数量 (頭)	戸数 (戸)	数量 (頭)	戸数 (戸)	数量 (頭)	戸数 (戸)	数量 (頭)	戸数 (戸)	
旧豊富村	75	72	161	153	44	41	--	--	--	--	X	2	--	--	旧豊富村
100 戸当り 数 量 (台・頭)	104		105		107		--		--		--		--		
利用戸数 割 合 (%)	39		82		22		--		--		--		--		

利用戸数割合(%)＝利用戸数／販売農家総数(186戸)

4. 主要作物作付状況

(第7表-4)

市町村名	中央市		作付率 (%)	備 考
総耕地面積 (ha)	779 (876)			
総本地面積 (ha)	765 (857)			
区分 作物名	作付面積 (ha)	単位面積当たり収量 (kg/10a)		
水稻	318	525	39	耕地面積：令和 6 年 耕地面積統計 (平成 1 8 年) 作物別作付面積：平成 1 8 年 作物統計
大豆	10	130	1	
なす	25	6,120	3	
スイートコーン	104	1510	13	
もも	56	1341	7	
すもも	25	504	3	
その他野菜・果樹	208	－	34	
述べ作付面積	818	－		
作付け率 (%)	105%	－		

5. 農業の動向

(第7表-5)

項目 区分	農家（戸）				土地（ha）				主要作物（ha）				大家畜（頭）				動力農機具（台）				地域 指定等	備 考
		C	B	A		C	B	A	作物名	C	B	A	家畜 名	C	B	A	農器 具名	C	B	A		
変化の状況（実数）	総農家数	238	186	139	耕地	179	142	99	野菜類 (施設)	54	x	42	肉用 牛	73	x	-	動力 田植機	94	102	75	農 業 振 興 地 域 野 菜 指 定 産 地 旧豊富村	A: 令和2年 (2020) B: 平成27年 (2015) C: 平成22年 (2010)
	専 業 農家数	91	85	27	田	40	31	20	水稻	10	x	x	豚	1198	x	x	トラク ター	215	194	161		
	第一種兼 業農家数	33	21	17	畑	78	70	51	果樹	57	x	25					コンパ イン	50	42	44		
	第二種兼 業農家数	114	80	95	樹園地	62	41	29														
	農業従事 者数	368	314	249																		
変化の理由	高齢化及び後継者不足により農家数は減少している。				農家数の減少に伴い耕地面積が減少している。				農家数の減少に伴い、水稻や果樹の作付面積が減少している。								農家数の減少及び農地集積等により変動している。 A：2015 農林業センサス B：2010 農林業センサス C：2005 農林業センサス					

資料：2005、2010、2015、2020 農林業センサス・平成22年、平成27年、令和2年国勢調査

第6節 地域環境の概況

中央市は、山梨県の中央南部に位置し、東は鎌田川を挟んで甲府市、北は JR 身延線・昭和バイパスを境として昭和町、西は富士川（釜無川）を挟んで南アルプス市、南は市川三郷町に接している。広さは東西約 10km、南北約 13km で総面積は 31.81km²である。

地形は、富士川（釜無川）により形成された沖積平野の地域と、御坂山系からなる地域との二つの地理的特性を持ち、両地域は笛吹川によって隔てられている。豊富地域は標高 650～950m に及ぶ急峻な御坂山魂があるため概ね北面斜面である。

市域の森林の割合は約 17%であり、県域で占める割合（約 78%）と比較すると低くなっている。御坂山地には、スギ、ヒノキ、アカマツなどの針葉樹のほか、クヌギ、コナラなどの広葉樹が分布している。また、市街地近くでも、春先の農耕地にれんげ草が咲き、美しい半自然景観が広がっている。

第4章 一般計画

第1節 事業計画の要旨

1. 要 旨

本計画は、本地区の条件不利地を対象に、農業用排水施設整備、農道整備、区画整理を行うものである。

2. 事業別面積

(第8表)

事業名 土地 利用区分 事業目的	農業競争力強化基盤整備事業						計 (ha)	備 考
	水 田 (ha)	普 通 畑 (ha)	牧 草 畑 (ha)	果 樹 園 (ha)	そ の 他 (ha)	小 計 (ha)		事業区域
区 画 整 理	2.0	1.0		4.1		7.1	7.1	
水 路 工	0.0	14.9		4.0		18.9	18.9	
農 道	1.5	2.6		0.4		4.5	4.5	
計	3.5	18.5		8.5		30.5	30.5	

第 2 節 営農計画及び土地利用計画

1. 営農計画の概要

豊富南部地区は、地区内には国営かんがい排水事業笛吹沿岸地区のかんがい用水パイプラインが整備されており、畑かん用水を活用した高収益の農業生産が可能である。現況水田利用されている平坦地は水稻とスイートコーンの二毛作を推進し、傾斜畑及び樹園地では地域振興作物であるスイートコーンやもも、指定野菜であるなすの生産を推進し、高収益の農業生産を目指す。

2. 土地利用区分

(第 9 表－ 1)

事業名	土地利用区分	水田	普通畑	牧草畑	果樹園	茶園	耕作放棄地	小計	原野	山林	その他	計	備考
	区分	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	
農業競争力強化基盤整備事業	現況	2.3	18.3	－	4.7	－	5.2	30.5	－		0.7	31.2	
	計画	3.5	18.5	－	8.5	－	－	30.5	－		0.7	31.2	

3. 作付方式

(第9表-2)

			――― : 播種準備			○ : 播種			◎ : 移植・定植			----- : 育苗期間			===== : 生育期間			===== : 収穫期間																				
No	作物名	作型	1月			2月			3月			4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月		
			上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下			
1	水稻											○			◎																							
2	大豆																	○																				
3	スイートコーン																		○																			
		水田裏作																		○																		
4	夏秋なす			○												◎																						
5	たまねぎ																																					

4. 生産計画

(第9表-3)

事業名	項目 土地利用区分		作物名	作付面積 (ha)			作付率 (%)		単位面積当たり収量 (kg/10a)			生産量 (t)			同左生産量増減の内訳 (t)		備考
				現況	計画	増減	現況	計画	現況	計画	増減	現況	計画	増減	面積増減	単位面積 当たり 収量増加	
農業競争力強化基盤整備事業	水田	表	水稻	4.9	1.9	△3.0	9.1	5.7	535	551	16	26	10	△16	△17	1	水管理改良
			大豆	0.8	0.4	△0.4	1.5	1.2	113	130	17	0	0	0	0	0	田畑輪換
			スイートコーン	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0									田畑輪換
			たまねぎ	0.0	1.2	1.2	0.0	3.6	2,548	2,930	382	0	35	35	35	0	田畑輪換
			なす	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0									作付増減
	畑	表	スイートコーン	4.5	2.8	△1.7	8.3	8.4	1,072	1,233	161	48	35	△13	△21	8	田畑輪換
			スイートコーン	20.7	11.0	△9.7	38.3	33.1	1,072	1,387	315	221	152	△69	△135	66	湿害防止
		表	なす	14.4	7.5	△6.9	26.7	22.5	4,469	5,023	554	643	376	△267	△347	80	湿害防止
	樹園地	表	もも	8.7	8.5	△0.2	16.1	25.5	1,066	1,444	378	93	123	30	△3	33	湿害防止
延べ作付面積				54.0	33.3	△20.7										鳥獣害含む	
耕地面積				31.2	31.2	0											

5. 労働改善計画

(第9表-4)

事業名	項目 土地 利用区分	作物名	作付面積 (ha)	単位面積当り労働投下量 (hr/ha)				備 考
				区 分	現 況	計 画	増 減	
農業競争力強化基盤整備事業	田	水稻	0.6	人 力	348	297	-51	
				機械力	82	55	-27	
		大豆	0.2	人 力	327	286	-41	
				機械力	287	198	-89	
	田・畑	スイートコーン	1.6	人 力	2,086	2,061	-25	
				機械力	243	225	-18	
		たまねぎ	0.8	人 力	370	359	-11	
				機械力	238	222	-16	
		なす	0.5	人 力	9,474	9,369	-105	
				機械力	263	205	-58	
	樹園地	もも	3.4	人 力	5,834	3,904	-1,930	
				機械力	101	76	-25	
合 計			7.1					

※作付面積はほ場整備の受益面積

6. 級地別土地利用区分

該当なしにつき記載を省略

7. 土地配分計画

該当なしにつき記載を省略

第 3 節 用水計画

1. 計画基準年

計画基準年及び用水諸元は国営笛吹川沿岸土地改良事業計画書との整合を図る。

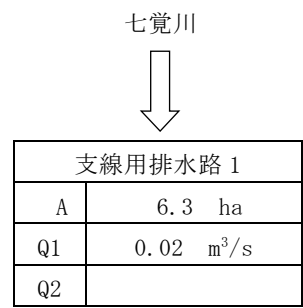
基準年：昭和 35（1960）年

2. 計画かんがい方式

水 稲 ・ ・ ・ たん水かんがい
畑 作 物 ・ ・ ・ うね間かんがい

3. 計画用水系統

本地区の用水は、河川から取水し地区内に配水される。



4. 計画用水量

(1) かんがい用水

該当なしにつき記載を省略

(2) 営農飲雑用水

該当なしにつき記載を省略

5. 水源計画

(1) 水利用計画

該当なしにつき記載を省略

(2) 用水対策

(ア) 貯水池

該当なしにつき記載を省略

(イ)井堰及び自然取入口

該当なしにつき記載を省略

(ウ)揚水機

該当なしにつき記載を省略

(エ)用 水 路

該当なしにつき記載を省略

(オ)その他の水源施設

(3) 水質水温

該当なしにつき記載を省略

第4節 排水計画

1. 計画基準雨量

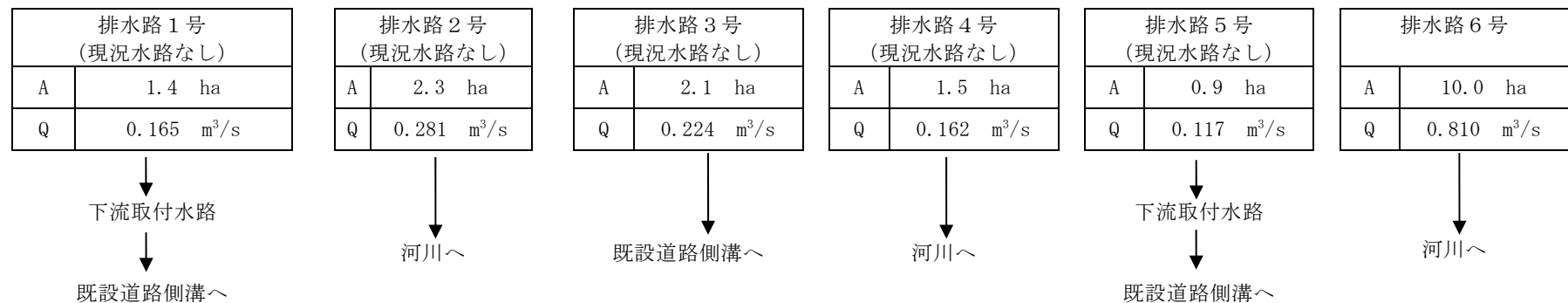
1/10 年確率洪水量とする

2. 計画排水方式

自然排水

3. 計画排水系統

本地域の排水は、河川または既設道路側溝に自然排水される。



4. 計画排水量

(第 1 1 表－ 1)

項目 排水 系統名	受益面積 (ha)	流域面積 (km ²)		基準 雨量 (mm/hr)	降雨による直接単位		基底流出量		全排水量 (m ³ /s)			単位排水量		備 考
	事 業 名				流出量 (m ³ /s/km ²)		(m ³ /s/km ²)		山地	平 地		(m ³ /s/km ²)		
	農業競争力強化基盤 整備事業	山地	平地		山地	平地	山地	平地		山地	自然排水	機械排水	山地	
1 号	1.2	0.000	0.014		11.6		--	--	0.165		--	11.6		
2 号	3.7	0.000	0.023		24.5		--	--	0.281		--	12.2		
3 号	4.0	0.006	0.015		21.2		--	--	0.224		--	10.6		
4 号	1.5	0.003	0.012		25.0		--	--	0.162		--	10.8		
5 号	1.3	0.000	0.009		12.6		--	--	0.117		--	12.6		
6 号	7.2	0.016	0.083		8.1				0.810			8.1		
計	18.9	0.025	0.157		17.2				1.759			9.7		

5. 排水対策

(1) 排水水門

該当なしにつき記載を省略

(2) 排水機

該当なしにつき記載を省略

(3) 排水路

(第 1 1 表 - 4)

項目 排水 系統名	流域面積 (km ²)	受益面積 (ha)	計画排水量 (m ³ /s)	延 長 (m)	構 造	排 水 本 川			備 考
		事 業 名				名 称	計画洪水量 (m ³ /s)	計画洪水位 (m ³ /s)	
		農業基盤整備促進 事業							
1 号	0.014	1.2	0.165	167	U-300B				
2 号	0.023	3.7	0.281	616	VS-300×300				
3 号	0.021	4.0	0.224	582	VS-400×400、VS-300×300				
4 号	0.015	1.5	0.162	255	PU-300A、U-360B				
5 号	0.009	1.3	0.117	187	VS-300×300				
6 号	0.100	7.2	0.810	750	PU-300A				
計	0.182	18.9	1.759	2,557					

(4) その他

該当なしにつき記載を省略

6. 湛水検討

該当なしにつき記載を省略

第 5 節 道路計画

1. 道路および索道

(1) 道路

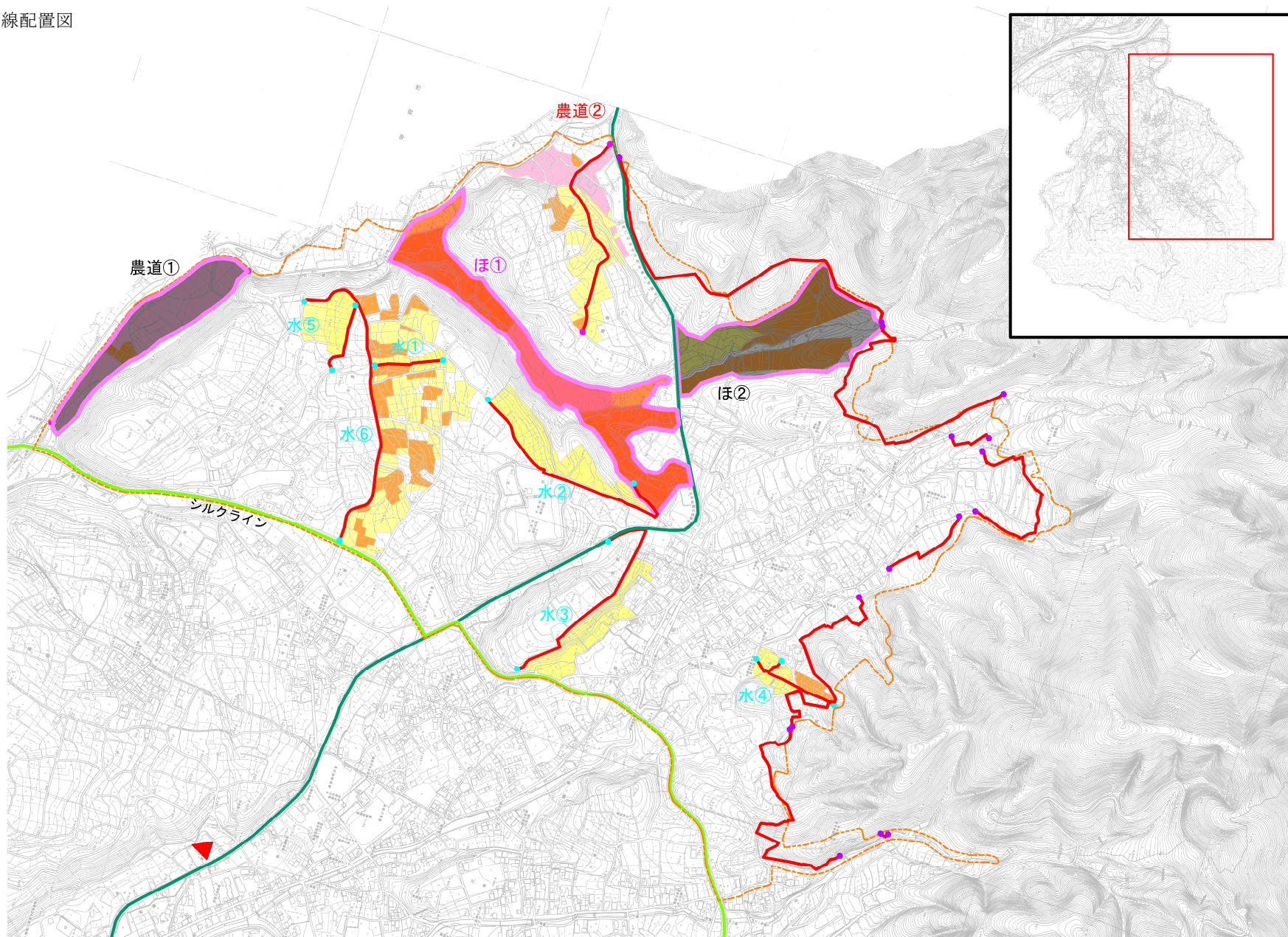
(第 12 表－1)

項目 路線名	幅（有効）× （m）	延長 （m）	構 造	既設道路との関係	備 考
農道 2 号	4.0(3.5)	× 540	アスファルト舗装	農道（シルクライン）に接続	

(2) 索道

該当なしにつき記載を省略

2. 路線配置図



第6節 農用地造成計画

該当なしにつき記載を省略

第7節 洪水調整計画

該当なしにつき記載を省略

第8節 干拓計画

該当なしにつき記載を省略

第9節 農用地整備計画

1. 区画整理

区画整理計画面積は7.0haである。

(1) 区画の形状

(第16表-1)

長辺×短辺 (m)	区画面積 (ha)	全体面積 (ha)	割合 (%)	標高差 (m)	備考
100×20	0.2	7.0	100	—	
計		7.0			

(2) 表土扱い

(第16表-2)

面積 (ha)	表土扱い要否の理由	扱い深 (cm)	土量 (千m ³)	備考
7.0	要：表土扱いが不要とされる場合以外は原則として表土扱いを行う。 (表土扱いとしない場合) ・作土の肥沃度が低いために作土と下層土を混合することによりかえって地力増進になる場合。 ・切土、盛土深が5cm以内の平坦な地区の場合。	25	34	

(3) 末端道水路配置図(別添計画平面図参照)

ほ場内水路は、工区内の排水を適切に流下させるため、原則 U-300B として設置し、必要に応じて流量計算により断面を決定する。

ほ場内道路は、幅 4.0m でアスファルト舗装として設置する。

2. 暗渠排水

該当なしにつき記載を省略

3. 客 土

該当なしにつき記載を省略

4. 農地保全

該当なしにつき記載を省略

第 10 節 老朽ため池改修計画

該当なしにつき記載を省略

第5章 主要工事計画

第1節 用水施設

1. 貯水池

該当なしにつき記載を省略

2. 頭首工

該当なしにつき記載を省略

3. 揚水機

該当なしにつき記載を省略

4. 用水路

該当なしにつき記載を省略

第 2 節 排水施設

1. 排水水門

該当なしにつき記載を省略

2. 排水機

該当なしにつき記載を省略

3. 排水路

(第 18 表－ 3)

項目 水路名	受益面積 (ha)	排水量 (m³/s)	延 長 (m)			構 造	勾 配	主要構造物	備 考
	事 業 名		開きよ	トンネル その他	計				
	農業競争力強化 基盤整備事業								
1 号	1. 2	0. 165	167	－	167	U-300B	0. 050		
2 号	3. 7	0. 281	616	－	616	VS-300×300	0. 029		
3 号	4. 0	0. 224	582	－	582	VS-400×400、VS-300×300	0. 020		
4 号	1. 5	0. 162	255	－	255	PU-300A、U-360B	0. 038		
5 号	1. 3	0. 117	187	－	187	VS-300×300	0. 017		
6 号	7. 2	0. 810	750		750	PU-300A	0. 017		
計	18. 9	1. 759	2, 557	0	2, 557				

4. その他排水施設

該当なしにつき記載を省略

第3節 道路及び索道

1. 道 路

(1) 道路の総括表

(第19表－1)

項目 路線名	幅（有効）(m) ×延長(m)	構 造	付 帯 構 造 物			最急勾配 (%)	同左延長 (m)	最小曲線 半径(m)	備 考
			名 称	構 造	数量(箇所)				
農道2号	4.0(3.5)×540	アスファルト舗装	—	—	—	—	—	15	
計	540								

(2) 道路主要構造物

該当なしにつき記載を省略

2. 索 道

該当なしにつき記載を省略

第4節 農用地造成

該当なしにつき記載を省略

第5節 洪水調整施設

該当なしにつき記載を省略

第6節 干拓施設

該当なしにつき記載を省略

第7節 農用地整備施設

1. 区画整理

(1) 区画整理

(第23表-1)

工 区 名	面 積 (ha)	整 地 工		表 土 扱 い		備 考
		標準区画	土 量 (m ³) ※	面 積 (ha)	土 量 (m ³)	
ほ場整備 1 工区	7.0	20a、10a	4,000	8.4	21,000	
計	7.0	—	33,000	8.4	21,000	

※整地工の土量は、掘削土量と盛土量の合計である。

(2) 末端支線用水路等

既存の畑かん施設は、当該部分のみ、原形復旧。

(3) 末端排水路等

道路側溝及びほ場内水路として整備。 規格 PU-300

2. 暗渠排水

該当なしにつき記載を省略

3. 客土

該当なしにつき記載を省略

4. 除礫

該当なしにつき記載を省略

5. 農地保全

該当なしにつき記載を省略

第8節 老朽ため池改修施設

該当なしにつき記載を省略

第6章 付帯工事計画

該当なしにつき記載を省略

第7章 工事の着手及び完了の予定時期

工期 着手 平成29年度

完了 令和9年度

第8章 環境との調和への配慮

対象施設等 整理項目	区画整理	農業用排水路	農道工
事業実施による環境影響 (事業実施により想定される環境影響(内容、程度)を整理)	工事中の騒音・振動や排ガスにより、周辺に生息する動物への影響及び、周辺農家や住宅地への影響が懸念される。 また、あらかじめ施工時に保護すべき動植物が確認された場合の対応を検討していくことが必要である。	工事中の土砂の流出に伴う汚濁水の発生により、下流水路や農地への流入による水質汚染が懸念される。 工事中の騒音・振動や排ガスにより、周辺に生息する動物への影響及び、周辺農家や住宅地への影響が懸念される。 また、あらかじめ施工時に保護すべき動植物が確認された場合の対応を検討していくことが必要である。	工事中の騒音・振動や排ガスにより、周辺に生息する動物への影響及び、周辺農家や住宅地への影響が懸念される。 また、あらかじめ施工時に保護すべき動植物が確認された場合の対応を検討していくことが必要である。
環境配慮対策 (地区として環境配慮のコンセプト、影響緩和(ミティゲーション)の方法及び選定理由、具体的な環境配慮対策工法を整理)	区画整理の実施にあたっては、周辺景観との調和に配慮し、区画境界に現地発生材を用いた石積みを採用するなど、美しい農村景観の保全を図る。 工事車両及び工事機械は、低騒音・低振動型で排ガス対策がされた機械を使用し、周辺へ影響を与えないようにする。 なお、施工時に保護すべき動植物が発見された場合は、一時的な捕獲・移動や保全区域への移植など、適切な処置を講ずる。	用水施設の整備にあたっては、工事に伴う濁水が下流水路に流出しないよう、仮廻し水路の施工や排水ポンプの設置により汚濁水を影響のない場所へ迂回させて排水する、沈殿槽を設けるといった対策を行う。 工事車両及び工事機械は、低騒音・低振動型で排ガス対策がされた機械を使用し、周辺へ影響を与えないようにする。 なお、施工時に保護すべき動植物が発見された場合は、一時的な捕獲・移動や保全区域への移植など、適切な処置を講ずる。	農道の整備にあたっては、周辺景観との調和に配慮し、美しい農村景観の保全を図る。 工事車両及び工事機械は、低騒音・低振動型で排ガス対策がされた機械を使用し、周辺へ影響を与えないようにする。 なお、施工時に保護すべき動植物が発見された場合は、一時的な捕獲・移動や保全区域への移植など、適切な処置を講ずる。

第9章 換地計画の概要

第1節 換地計画を作成する上での基本的な考え方

本地区の換地計画は、農地の改良、開発、保全及び農地の集団化を目的とすると共に、用途、地積、等位その他の自然条件を総合的に勘案し、従前の土地に照応するように定めるものとする。

第2節 換地区の設定

1. 換地区の名称、所在、面積

(第25表－1)

換地区の名称	換地区の所在	面積(ha)
1工区	中央市旧豊富村 木原地内	7.0
計		7.0

2. 換地区を設定する理由

本地区の区画整理区域は、耕作者の土地所有状況、地形状況等を考慮し、1工区として設定する。

第3節 換地計画樹立の基本方針

1. 従前の土地の地積の基準

(第25表－2)

換地区の名称	地積の基準
全換地区	換地交付の基準とする従前の土地は、土地改良事業計画決定の日の登記簿地積とする。ただし、左記の日から1ヶ月以内に測量士、測量士補、または土地家屋調査士の測量した実測図及び隣接所有者の同意書を添付して申請があった場合には、その申出のあった地積とする。

2. 用途別予定地積

(単位 : ha) (第 25 表 - 3)

用 途 換地区名 前後		非農用地区域外に換地する土地												非農用地区域に換地する土地										機能交換に係る土地				一 般 国 有 地 等	総 合 計			
		田	畑	山 林 ・ 原 野	そ の 他	通常事業施行地 域に含める土地 (令第1条の9() 書き)			計	本事業によって 生ずる土地改良 施設用地			創 設 農 用 地	合 計	特定用途用地			異 種 目 換 地	創設非農用地					合 計	国	県	市 町 村 等			合 計		
						土地 改良 施設	そ の 他	小 計		改 良 区 域	そ の 他	小 計			宅 地	そ の 他	計		化 農 業 施 設	農 業 経 営 合 理 化 施 設	上 必 要 な 施 設	生 活 上 ・ 経 営 用 地	公 用 ・ 公 共 用 地								宅 地 等	計
1 工区	従前の土地																															
	換 地																															
計	従前の土地																															
	換 地																															

換地計画作成後に記載

3. 農用地集団化の方針

(第 25 表－ 4)

区 分 換地区分	地帯別、グループ別 団地の設定	個 人 別 換 地 の 方 法			
		位 置 の 選 択 方 法			1 戸当りの 目標団地数
1 工区			換地計画作成後に記載		

4. 非農用地の換地の方法

(第 25 表－ 5)

区 分 換地区分	用 途	非農用地区域 の位置の概略	面積 (m ²)	換 地 の 手 法	換地取得予定者	備考
1 工区			換地計画作成後に記載			

第4節 土地評価及び精算の方法

1. 評価の方法

標準点を決めて点数制により通作距離、搬入の良否、圃場区画の広狭、形状の良否等について採点評価の方法により評価委員が評価する項目別配点方式による。

2. 精算の方法

土地改良事業による利益（増加額）を従前の土地の地積に比例配分し、その配分額を加えた額を換地交付基準額として、換地価格との清算を行う増価額清算方式（比例地積清算方式）による。

第5節 換地計画樹立の年度計画

(第25表－6)

区分 換地区名	一時利用地の指定予定年度	換地計画の認可決定予定年度	換地処分予定年度	備考
	1 工区	換地計画作成後に記載		

第6節 換地処分の時期に関する特則

区画形状に係わる工事が全部完了し、工事後の土地について確定測量が行われた後においては、土地改良法第89条の2第10項で準用する第54条第2項ただし書きにより換地処分を行うことができるものとする。

第 10 章 事業費の総額及び内訳

(第 26 表)

(単位：百万円)

事業名 区分	農業用排水	農道	区画整理	鳥獣侵入防止柵	計	備考
主要工事	131.8	135.0	332.0	90.6	689.4	
附帯工事						
計	131.8	135.0	332.0	90.6	689.4	

第 11 章 効 用

(第 27 表)

事業名	項 目 区 分	年総効果（便益）額 （千円/年）	現況年総農業所得額 （千円/年）	年増加農業所得額 （千円/年）	備 考
農業競争力強化基盤整備事業	農業用排水施設	23,398	59,626	13,625	
	農 道	8,037	11,183	399	
	ほ 場 整 備	24,316	5,120	13,965	
	鳥獣侵入防止柵	21,253	71,734	13,501	
	計	77,004	147,523	41,490	

<参考>

総便益額（現在価値化）：1,367,586 千円

第 12 章 関連する事業

該当なしにつき記載を省略

第 13 章 現況・計画図面（別添）